



「なごやか亭」フランチャイズ化や「トミーズチキン」の展開など、同社の挑戦を語った谷川社長

「夢はナショナルチェーン」

三ツ星レストランシステム 谷川社長が講演

釧路あすなろク例会

中小企業経営者による異業種交流、経済研修団体の釧路あすなろクラブ(宮崎博好会長)は8日、釧路キャッスルホテルで3月例会を開き、「なごやか亭」などを全国展開する三ツ星レストランシステム

の谷川富成社長が、5月に札幌市でオープンする「トミーズチキン」など、同社の挑戦について語った。この日、谷川社長は、日本マクドナルドなどのように全国展開するナショナルチェーンで年間20億円を売り上げる夢を語り、当時教育大釧路校の学生だった土井政規副社長を中退させパートナーに引き込んだエピソードを紹介、同社の歩みを振り返った。

1991年に創業した同社は、2000年に目標の年商20億円、今年2月には同50億円を達成した。しかし「本当の夢はナショナルチェーンであり、目標の売り上げを達成しても2人で祝杯は挙げなかつた」(谷川社長)。1億円と2年の歳月をかけ、札幌市で「小春茶屋」という和食チェーンの実験を実施。その結果を踏まえてシステム開発を重ね、5月上旬、同市白石区で和風フライドチキンを中心メニューとした「トミーズチキン」をオープンさせ、既存のチェーン各社に勝負を懸ける。「ナショナルチェーンとしての完成度に自信を持つ『トミーズチキン』1号店と『なごやか亭』のフランチャイズ化の成功で、やっと思ふことができる」と谷川社長は意気込みを語った。(花城護)